

10 学校経営ビジョン

1 校訓

和協敬愛（わきょうけいあい）「心と心を合わせ、人を敬い愛する」

（注）旧田根森小学校の校訓を引き継いでいる。仲よくして力を合わせることに、相手に対して尊敬と親しみの気持ちをもつことを表している。

2 学校の教育目標

ひらけ わくわく大雄っ子
～ じぶんを ちいきを みらいを ～

3 目指す学校像

たくさんの大人と一緒に
『わくわく』を創っていく学校

※『わくわく』とは、
期待感・一体感・達成感

4 目指す子どもの姿

『わくわく』しながら、「〇〇を」ひらいていく子ども

「じぶんを」
心を開き、能力や
可能性を伸ばす子ども

「ちいきを」
地域とつながり、地域を
盛り上げようとする子ども

「みらいを」
夢をもち、自分やふるさと
の未来を考える子ども

粘り強く取り
組む気持ち

コミュニケー
ション能力

チャレンジ
する気持ち

自分や仲間を
認める気持ち

よいもの・こと
に気付く感性

夢に向かう
志

身に付けさせたい資質・能力

5 本年度の重点

『わくわく』を生み出す3本の柱

1本目の柱:特別活動

自分たちで『わくわく』を
創る子どもを育てる特別
活動の充実

- 子ども一人一人の思いを大切に活動を進める。
- 子どもの『わくわく』を支え、活動を実行可能なものにしていく子どもの自己指導力を育てる教師のサポートの充実を図る。

2本目の柱:研修

伝え合い 深め合い 自ら
学びを創る子どもの育成
～他者との関わりの中で、
自分を高めていくための
子どもを育てていくための
学びづくりを目指して～

- 一人一人に最適な手立てをとる。
- 多様な他者と協働的に学ぶ場の設定をする。

3本目の柱:地域連携活動

- 地域のひと・もの・ことを積極的に教育課程に組み込み、活用していく。
- 学校運営協議会を核に保護者・地域住民と共に「開校10周年イベント」を実行していく。
- 地域で学んだことを地域に還(かえ)す、社会に発信する活動を一層推進していく。

確かな生徒指導のもとで

6 『わくわく』を生み出す、特色ある主な取組

- 『わくわく』する学習とメディアによる積極的な広報
……学校外の人との学習や学校外の場所での学習等の一層の推進とメディアによる積極的な広報
- 「どこでも大雄っ子交流」
……小規模校ならではのフットワークの軽さを生かし、時間と空間を飛び越える、ICTを活用した、他校や他地域との交流学习の実施
- 「大雄わくわく応援団」
……大雄小学校や大雄地区を盛り上げていくために学校と学校運営協議会が一体となって進める活動の実施

7 『わくわく』を支える組織

- (1) 職員集団「Proチーム大雄」
 - ・「学年団の児童を複数教員で育てる」意識を醸成するための「副担任制」の継続と副担任による教科担任制を実施する。
 - ・教務主任は、「総括学級担任」として全学級に関わる。
 - ・教頭、教務主任、特別支援学級担任、学習支援教員による教科担任制やTT授業を実施する。
 - ・7年部（管理職、養護教諭、主任主査、その他の職員）は、児童全体と個々を見つめ、時には優しく、時には厳しく支える意識を常にもつ。
- (2) 学校運営協議会「大雄わくわく応援団」
 - ・学校経営上の課題を解決するために、協議会委員の知恵とネットワークを借りていく。
 - ・本校のコミュニティ・スクールを「大雄わくわく応援団」という呼称にし、学校や地域を盛り上げようという思いをもった人を集めていく。（そのシンボルとして缶バッジを活用する。）
- (3) 地域の他団体・企業「プロ集団大雄・横手」
 - ・専門の知識・技術を有する団体（園芸振興拠点センター、JA秋田ふるさと、大雄地区交流センター、大雄ホップ農業協同組合等）や地元企業と協働した教育活動を積極的に推進していく。
 - ・企業ボランティア（大和更正園等）、地域ボランティア、保護者ボランティアの協力を可能な限り取り込んでいく。
 - ・大雄地区の資源にとどまらず、横手市全体の資源に視野を広げ、有効なものは積極的に活用していく。
- (4) 保・小・中連携教育組織「キャリア大雄」
 - ・たいゆう保育園との交流により、児童のルーツと成長の過程を学んでいく。
 - ・雄物川小学校、大森小学校との交流により、児童の成長の現在地を確認する。
 - ・横手明峰中学校との交流により、児童の目指す姿を確認する。

8 常に大事にしたい視点「そこに当事者意識はあるのか」

※「当事者意識」とは、物事や課題に対して「自分事」と捉え、主体的に取り組む姿勢

今年度、大雄小学校は開校11年目を迎えるが、これからも変わらず『わくわく』を発信し、地域に貢献できる学校であり続けたい。その願いを込めて、学校の教育目標を、誰にとっても分かりやすく、覚えやすく、しかも目指すところがはっきり見えるものに思い切って変えた。その上で、教職員は、今年度も「副担任制+教科担任制」を核として多様な子ども達に全員で対応していく。児童に関しては、特別活動を重視して『わくわく』を自分達で創り出させていく。保護者・地域に関しては、コミュニティ・スクールを「大雄わくわく応援団」とネーミングし、トレードマークになる缶バッジを作成して結束を強めていく。これ以外にも本学校経営計画に盛り込んだ全ての事は「当事者意識」を高めていくための作戦ではあるが、常に「〇〇に当事者意識はあるのか？」という視点こそ大事にしていきたい。

当事者意識をもった学校・保護者・地域が子どもを育て、子どもが家庭や地域・社会を育てる。